



大内けいじ
大阪市議員

大内けいじの 市政報告

南海トラフ巨大地震に対する 防潮堤の耐震対策

令和3年3月10日
建設港湾委員会

質問要旨 ①

防潮堤の耐震対策の進捗

次に、防潮堤の耐震対策についてお聞きします。

先月13日には、幸いにも津波による被害はありませんでしたが、福島県沖を震源とする最大震度6強の大きな地震が発生しました。一方、明日は、東日本大震災から10年の節目でもあります。改めて、南海トラフ巨大地震に対する対策の重要性を認識したところで。

大阪市では、防潮堤の耐震対策について、大阪府とも連携し、平成26年度から10箇年で対策を完了すべく取り組んでいるところで。

まずは、大阪港湾局における大阪港の防潮堤の耐震対策の進捗についてお聞きします。

答弁要旨 ①

防潮堤の耐震対策については、南海トラフ巨大地震対策の柱として位置づけ、大阪府市の港湾・河川部局が連携し、平成26年度から令和5年度までの10年間で対策を完了することを目標に取り組んでいる。

具体的には、耐震対策が必要な防潮堤のうち、水門より海側にある防潮堤で背後が居住地域になっている箇所、および水門より内側であっても背後の地盤高が満潮位よりも低い箇所について

質問要旨 ②

耐震対策の完了に向けた計画

は前半の5年間で、それ以外の箇所については後半の5年間で対策を完成させることとしている。

大阪港湾局所管の大阪港の防潮堤約60kmのうち、対策が必要な防潮堤の延長は、詳細な耐震照査の結果、9.6kmとなっており、今年度末には、後半5年間の実施箇所のうち1.1kmの対策を完了し、すでに計画どおり対策が完了している前半5年間の実施箇所3.3kmとあわせ、合計4.4kmの対策を完了する予定である。

質問要旨 ③

直轄事業化の調整状況と 予算措置の状況

また、対策に必要な財源の確保については、国の交付金を基本とし、事業費不足を補うため、「緊急防災・減災事業債」、いわゆる「緊防債」を積極的に活用しながら事業進捗を図ってきていることから、平成26年度から全国の自治体と連携して「南海トラフ巨大地震等に対する緊急防災対策促進大会」を開催し、交付金の配分の増額や、「緊防債」の期間延伸などを国に要望してきた。「緊防債」の期間延伸については、大阪港湾局独自で、直接、総務省への要望も行ったところである。

その結果、昨年12月に総務省から発表された「令和3年度地方債計画」によると、「緊防債」の事業期間が令和7年度まで延長されることとなっている。

これら取り組みにより、目標年次である令和5年度に向け、着実に対策を進めていきたいと考えている。

答弁要旨 ②

対策が必要である残りの延長5.2kmのうち此花地区の4kmについては、前面には係留施設、背後には危険物屋外タンク群や工場などが近接して立地し、耐震対策にあたっては、既設の構造物に影響を与えず、かつ背後での企業活動などに極力配慮した「高度な技術が必要」であることから、国による事業の実施に向けて、近畿地方整備局と調整しているところである。

質問要旨 ③

直轄事業化の調整状況と 予算措置の状況

此花梅町地区の耐震対策は高度な技術が必要であり、市の負担軽減にもつながることから、国による事業化は重要であると思うが、なかなか実現していないなか、早期完成に向けては、いつまでも国による事業化だけにこだわっていいのかが、懸念もするところだ。

私の地元である此花地区の耐震対策について、現時点での国との調整状況や予算措置がどのようになっているのか、お聞きします。

答弁要旨 ③

此花地区の防潮堤の耐震対策について、近畿地方整備局は、令和3年度予算として、土質調査・設計業務の費用3.3億円を要求しており、本市では、直轄事業の負担金としてその3分の1である1.1億円を計上している。国において令和3年度予算が認められるかどうかについては、現時点では分からないが、此花地区の対策完了には国による事業化は不可欠であるため、これまでも数年間にわたり国に要望を続けており、先月にも国土交通省港湾局長に対して、直接、要望を行ってきたところである。本市としては、引き続きあらゆる機会を活用して、此花地区の早期事業化を強く要請していきたい。

一方で、仮に来年度予算が認められない場合には、目標年次での完成が難しくなるため、一部、本市事業で先行して実施することも含め、早期対策完了に向けた対応を検討する必要があると考えている。

まとめ

此花地区にある危険物タンクが被災すると、市民生活や企業活動に及ぼす影響は非常に大きい。また、対岸の夢洲地区は、万博の開催や国際観光拠点の形成をめざしており、今後多くの人々が訪れることから、防犯面の強化は着実にし、さらなる強化は必要ありません。

此花地区の防潮堤の耐震対策の完了には、いずれにしても国による事業化は不可欠ということであり、早期の事業化について、引き続き国に強く要望されるようお願いいたします。

夢洲のインフラ整備について

令和3年3月10日
建設港湾委員会

質問要旨 ①

夢洲インフラ整備の来年度の予定について

国際博覧会の開催やIRを含む国際観光拠点の形成、国際物流拠点のさらなる機能強化に向けて、夢洲のインフラ、埋立や道路・橋梁、鉄道、上下水道などの設計や工事に、来年度176億5,500万円の予算が計上されている。

まずは、それぞれのインフラ整備の来年度の予算について伺う。

答弁要旨 ①

大阪港湾局

いまお配りいただいた資料の1枚目が、夢洲インフラ整備箇所図なので、ご覧いただきたい。

まず埋立、盛土については、IRエリアについては今年度完了しており、資料の1番の国際博覧会会場の30ヘクタールの工事については来年度完了の予定である。

次に道路については、メインのアクセス道路になる9番の此花大橋、8-1番の舞洲幹線道路、10番の夢舞大橋、7番の夢洲幹線道路について4車線を6車線に拡幅する工事を来年度より実施し、うち夢舞大橋の6車線化については来年度に完了する。また、夢洲の観光ゾーン内の道路である2番の観光外周道路についても来年度工事着手する。

高架橋、交差点の立体交差化について、3番の夢洲内の物流と観光の動線を分離するための2つの高架橋については、今年度末より、

夢洲インフラ整備箇所図



北側の高架橋において工事期間中の交通処理するための仮設の道路整備工事に着手する予定であり、来年度から本格的に工事を実施する。また、8-2番の舞洲東交差点の高架橋については来年度に詳細設計を完了し、仮設の道路整備工事に着手する。

6番の鉄道南ルートの北港テクノポート線については、昨年からの駅部の工事に着手しており、来年度からさらに工事を本格化させる。4番5番の上下水道については今年度から夢洲で整備工事に着手し、来年度も順次工事を実施していく。

海上アクセス拠点となる夢洲北側の11番の係留施設については、浮桟橋について来年度工事を完了する。また、波除堤については来年度詳細設計を実施する。

質問要旨 ②

上下水道の状況

来年度は様々なインフラ整備に取り組むとの説明があった。

その中で、上下水道など埋設物の整備は道路や橋梁などに比べると一般の方々が見て工事の進捗を実感しにくいと思う。配布した2枚目の資料では、夢洲における上下水道の整備計画のみを取り出して示しているが、その概要及び現在の状況について、水道局と建設局の両局に伺う。

答弁要旨 ②

水道局 建設局

(水道局)

夢洲まちづくりに向けた上下水道整備については、配布された資料の水色で示されており、夢洲内の配水管整備とともに、夢洲への供給ルートについては、実線の既設管路である咲洲からの南ルートに加え、新たに北港地区から舞洲を経由する北ルートを計画している。

舞洲からの北ルートについては、北港加圧ポンプ場に至る配水管の増設、さらには舞洲内及び夢舞共同溝に配水管を整備するとともに、供給量を増加するため、既存の北港加圧ポンプ場のポンプ能力及び舞洲給水塔に設置している塩素注入設備等の増強も併せて実施していく。

上下水道整備の総事業費としては、約34億円を見込んでいる。

現在、夢洲内の配水管工事に着手しており、来年度には、夢洲内に加え、舞洲及び北港地区の配水管工事を実施する予定であり、令和3年度予算として約13億円を計上している。令和6年度の整備完了に向け、来年度以降も順次工事を実施していく。

(建設局)

夢洲関連の下水道整備については、配布された資料の茶色で示された部分になるが、夢洲地区の開発計画に伴い、夢洲内の観光外周道路等の整備に先行して汚水管の整備を行うとともに、夢洲抽水所の新設と舞洲抽水所の増設、夢洲抽水所と舞洲抽水所をつなぐ送水管の整備、そして夢洲で発生する汚水を処理するため、此花下水処理場の

夢洲インフラ整備(上下水道の整備計画)



機能増強を行うものであり、送水管については、夢洲内及び舞洲内に整備するとともに、上下水道と同様に夢舞共同溝へ整備する。また、総事業費としては約102億円を見込んでいる。

現在の進捗状況としては、今年度から夢洲内の汚水管の工事に着手しており、来年度は引き続き夢洲内の汚水管の工事を進めるとともに、夢洲、舞洲の両抽水所の工事及び送水管の工事に着手する予定であり、令和3年度予算として約21億円を計上している。

下水道においても、令和6年度の整備完了をめざし、来年度以降も順次工事を実施していく。

質問要旨 ③

夢洲関連工事間の調整

上下水道については既に今年度に工事着手していると説明があった。

今後は、大阪市のインフラ整備工事に加え、万博会場のパビリオン建設などの様々な整備工事が夢洲内で行われることとなるが、

それらの工事と先ほど配布した資料の1枚目にある此花大橋や夢舞大橋の6車線化や高架橋の整備工事は輻輳しないのか。

答弁要旨 3 建設局

資料の9番の此花大橋と10番にございます夢舞大橋の6車線化の工事につきましては、来年度(2021年度)から工事に着手し、万博の会場建設工事が本格的に始まる令和5年度(2023年度)までに完了する予定であるため輻輳しないと考えています。一方、新設の高架橋につきましては、資料の3番にございます、舞洲で2橋、また資料の8-2番にございます、舞洲東交差点の立体交差化に伴い、舞洲で1橋を架橋することとしています。

舞洲の高架橋は、来年度(2021年度)から工事に着手しまして、令和6年度(2024年度)に完成する予定です。また、舞洲の高架橋は、来年度(2021年度)に詳細設計を行い、令和6年度(2024年度)に完成する予定でありまして、委員で指摘のとおり、万博の工事と輻輳することが懸念されます。

このため、舞洲では、万博や高架橋の工事の他、1Rの建設工事や鉄道、道路、埋設等のインフラ工事等、今後、多くの工事が並行して実施されますことから、これら全ての工事を円滑に進めるため、一昨年8月に高橋副市長を座長とし、関係する工事の事業者で構成する「舞洲等まちづくり事業調整会議」を設置し、工程調整等を行ってまいります。また、この事業調整会議では、工事車両による物流や一般交通への影響を抑えることについても検討しており、周辺道路の時間毎の交通量に応じ、渋滞を発生させない範囲で各事業の工事車両台数を割り振るとともに工事車両の道路上での待機の禁止、決められたルートや時間帯以外の通行を禁止する等の運行ルールについても定め、高速道路の活用にも取り組んでいくと考えています。

質問要旨 4

工事中の車両通行への影響

夢洲及びその周辺で高架橋も含め様々な工事が並行して実施されることについては、「夢洲等まちづくり事業調整会議」の枠組みの活用などにより事業者間で調整し、円滑に推進できるように取り組んでいることはわかった。

一方で、此花大橋及び夢舞大橋の6車線化工事は、万博パビリオン建設と輻輳しないとのことであるが、大規模なものとなり車両の通行に支障が生じないか心配している。そこで、これらの工事中、一時的に車線を縮小する場合もあると思われるが、その際に物流車両の通行に影響を及ぼさないのか伺う。

答弁要旨 4 建設局

まず、此花大橋の6車線化工事につきましては、現在の此花大橋は車道4車線の両側に歩道が設置されておりまして、本工事では両側の歩道を撤去し、車道に改良する工事を行います。

また、夢舞大橋の6車線化工事につきましては、現在の夢舞大橋は車道6車線の両側に歩道が設置され、そのうちの2車線はガードレールで閉鎖しておりますが、本工事では、このガードレールを撤去して舗装を補修する工事を行います。

これらの工事の実施にあたりまして、工事中に車線規制が必要となる場合がありますが、その際には交通量が減少する夜間や夢洲のコンテナターミナルのゲートが閉まる週末での施工を検討するなど、物流・沿道関係者との調整合意を図るとともに、先ほどの答弁でも述べました「夢洲等まちづくり事業調整会議」を通じて他の工事とも調整を行い、物流車両の通行への影響が極力生じないように進めさせていただきます。

質問要旨 5

此花大橋6車線化による歩行者・自転車動線確保

此花大橋や夢舞大橋の工事は、物流車両への影響は極力発生しないようにするということであるが、此花大橋については、車線の拡幅工事に伴い歩道が撤去されるということであり、歩道がない期間が生じるということである。

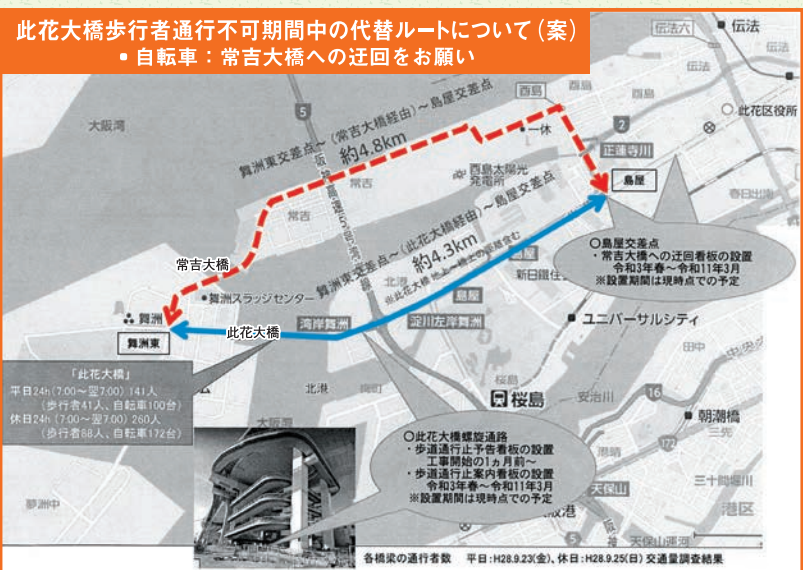
此花大橋の歩道の利用者は、平日・休日ともにそれほど多くはないものの、此花区の市街地から舞洲の事業所やスポーツ施設等まで、徒歩もしくは自転車で通行される方もいる。

此花大橋の歩道がなくなる期間、そうした利用者に対する代替手段の確保が必要と考えるが、歩行者と自転車の通行はどうなるのか、お聞きしたい。

答弁要旨 5 大阪港湾局

此花大橋については、先ほどの答弁にあらたとおり、両側の歩道を撤去し、車道に改良することにより6車線化を行うものであるが、新たな歩道を設置するためには、橋梁の両側をさらに拡幅する比較的大規模な工事を行う必要があり、その工事期間を踏まえると万博開催までの完成は難しいことから、万博終了後に設置することとしている。その結果、6車線化の工事期間とあわせて8年程度、歩道がない期間が生じるものである。

歩道撤去に伴う代替手段としては、自転車については、此花区の市街地から北側の常吉大橋を通行すること、歩行者については、大阪シティバスの路線バスの利用により乗客の運賃負担なしで此花大橋の区間を通行してもらうことを考えており、そのための経費として、令和3年度予算で約140万円を計上している。



利用者の方々には、工事期間中、大変ご不便をおかけすることになるが、ご協力をいただきたいと考えている。

要望

夢洲及びその周辺で行われるインフラ整備について、来年度の予定、現在の状況、工事の輻輳への対応や工事期間中の車両や歩行者などの通行対策について確認をした。万博開催に向けて、これらの事業が円滑に進むよう引き続き取り組んでほしい。一方で、万博開催期間中については、夢洲には一般車は入れないが、舞洲にパークアンドライド(P&R)駐車場が設置されると聞いており、舞洲に向かつて車が集中することを懸念している。夢洲や舞洲での渋滞により此花区の市街地に影響がないようお願いしたい。

伝法幼稚園、建て替えに着手

伝法幼稚園の東側を走る阪神なんば線の高架化工事により、既存園舎の建て替えが必要となり、令和3年4月から新園舎の工事に入ります。新園舎の使用は令和4年の夏季休業期間終了後となります。それまでは既存の園舎を活用します。なお既存園舎の解体は新園舎の完成後となります。

施工イメージ図



正蓮寺川公園の 森巣橋上流部分(一部)が 新たに完成しました



六軒家川防潮堤 耐震対策工事の 進捗について



大阪府の説明によれば、南海トラフ巨大地震が発生した場合、液状化に伴い六軒家川の防潮堤が変異(沈下等)する可能性が高く、満潮時には浸水が予測されることから、防潮堤の液状化対策・耐震対策の必要性が専門家によって指摘されていました。大阪府は平成30年度から六軒家川防潮堤耐震対策工事に着手し、令和5年度末には完了する予定とのことです。工事は上流部分から下流にかけて順次行います(図を参照)。大阪府は1日でも早く安全な六軒家川となるよう工事進捗に努めるとのことです。

六軒家川防潮堤補強工事現場状況図



六軒家橋からJR夢咲線方面



六軒家橋から朝日橋方面

